

日本レジャー・レクリエーション学会

第29回大会あいさつ

日本レジャー・レクリエーション学会

会長 鈴木 祐一

日本レジャー・レクリエーション学会の第29回大会に際し、一言ごあいさつを申し上げます。

先ずは、今学会大会の開催にあたりまして、その企画・運営の細部にわたり、多大のご高配とご尽力をいただきました淑徳大学関係の方々に衷心より感謝を申し上げます。

第20回ユネスコ総会（1978年）における「体育・スポーツに関する国際憲章」の第8条には、マスメディアは体育・スポーツに積極的に影響を及ぼさなければならない、ともありますが、今回の学会大会のテーマは、「メディアとスポーツ “今までとこれから” 」と題し、NHK解説委員で横浜国際総合競技場の場長でもある西田善夫氏とテニスプレーヤーとして活躍された沢松奈生子氏に講演をお願いし、演題をそれぞれ「～見せるためのスポーツ映像の変遷～」と「～選手の側から見たスポーツ映像の意味～」からの視点を中心にお話することになっております。

来年のオリンピック（シドニー）そして2002年のサッカーのワールドカップなど世界中の人々が関心を寄せる大会が続きスポーツとメディアの関係がますます深まるものと考えます。また、学会大会における研究発表は27題にのぼり、日々の研究の結晶として発表や提案がなされますが、多くの成果が得られますよう期待しております。

二日間の会期中、会員をはじめわが国のレジャー・レクリエーションに関心を持つ方々が一堂に会し、これまでの研究成果等の発表、情報の交換を行い、今後の更なる研鑽の「糧」とされるとともに、相互の親睦をいっそう深めていただくことを願い、あいさついたします。